定期的な検診で、万一のリスクに備えましょう

がんの治療法は、がんの部位や進行度などによってさまざまです。進行がんの5年間の費用総額は、早期がんより100万円以上高額になる傾向があります。早期発見は、身体だけでなく経済的な負担も軽くします。

がんになった場合にかかる費用の目安

		公的医療保険制度対象の治療費 入院や手術・抗がん剤治療等にかかる費用※2		公的医療保険制度対象外の治療費 差額ベッド代と食事代(標準負担額)にかかる費用		治療費以外の費用 入院準備やウィッグ等の費用
ステージⅠ・Ⅱの場合(比較的進行度が低いがん)	約378万円	約151万円	+	約54万円	+	約173万円
ステージⅢ・Ⅳの場合(比較的進行度が高いがん)	約491万円	約220万円	+	約97万円	+	約173万円

※2 がん罹患後に発生した医療費の総額を基に、自己負担割合3割として計算(高額療養費制度適用後の金額)

治療費以外の費用の内訳(5年間総額)

交通費・外食費
通院や家族のお見舞いに必要な交通費・外食費
平均約29万円

身体の変化により必要な費用
治療で髪が抜けた場合の医療用ウィッグ購入費・メンテナンス費等
平均約50万円

家事・育児代行費用
病気や看病による家事・育児代行費
平均約79万円

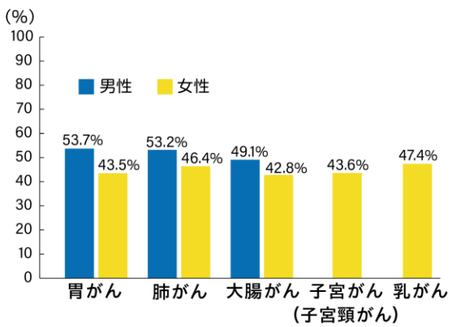
入院準備費用
入院時のパジャマやスリッパ等の衣料品の購入費等
平均約14万円

出典:日本生命「NISSAYデータブック2025」P.9より作成

まだまだ低い日本の検診受診率

早期発見のカギは検診ですが、日本の受診率はまだ50%前後です。ご自身の健康と安心な生活を守る手段として、ぜひ検診を受診してください。

〈がん検診の受診率(2022年実績)〉



出典:厚生労働省「2022(令和4)年国民生活基礎調査の概況」

肺がん検診の流れ

① 病院に予約する
医療機関で予約を取り、受診してください。
40歳以降は、年に1回の定期受診を心がけましょう。

② 検診
胸のX線撮影を行います。胸部全体を写すため、撮影時には大きく息を吸い込み、しばらく息を止めて撮影します。

③ 検診結果
検診結果 正常
「要精密検査」の判定が出たら、放置せず一日でも早く医療機関を受診しましょう。

(005-26-174)(2026-203G,安心の多面体企画部)

岩手県
日本生命は岩手県と包括連携協定を締結し、地域に根差した取組を進めています。

今こそ禁煙チャレンジ!



禁煙や検診は、あなただけでなく、大切な家族の安心に直結します。
この機会に、あなたの未来を守るための
第一歩を踏み出しましょう。

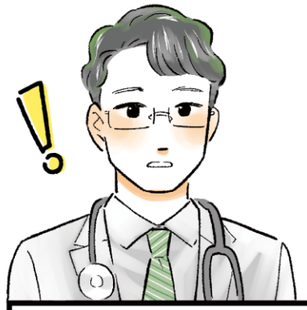
こんな症状はありませんか?
咳 / たん / 息苦しさ / 胸の痛み

忙しい毎日、自分のことは後回しになっていませんか?

健やかな毎日は、あなたの身体があってこそ。支えてくれている身体の目に見えない「声」を聞くために、定期的なチェックを始めましょう。

監修:公益財団法人 日本生命済生会日本生命病院 院長:立花 功

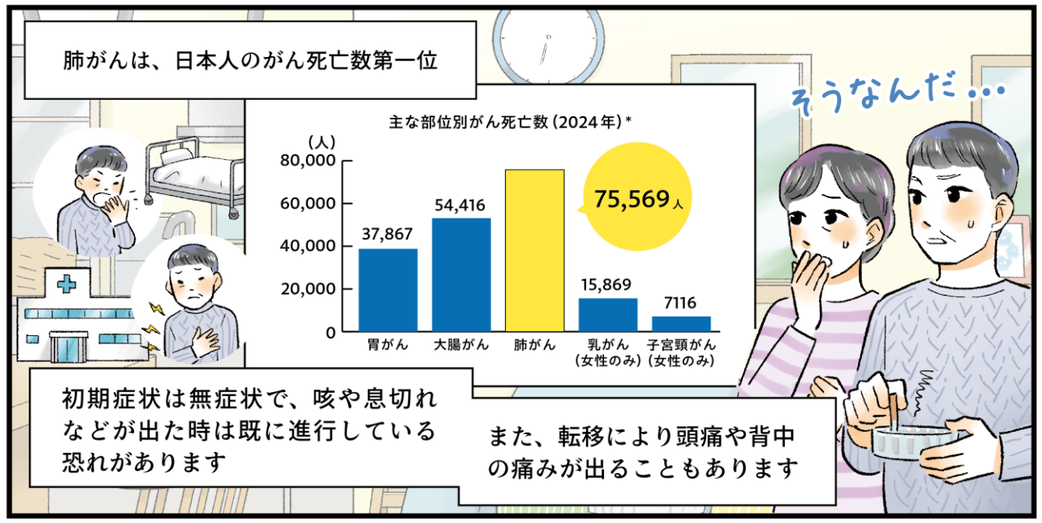
日本生命保険相互会社
NISSAY



その症状、実は肺がんかも…？

「最近、ちょっとしたことで息が切れる」「なんだか咳が続く、痰が絡む…」。
そんな身体の異変を、「歳のせい」「ただの風邪」と軽く考えていませんか？
その油断が、命に関わる重大な見落としにつながるかもしれません。









* 出典：国立がん研究センター「最新がん統計」より作成

禁煙と年に1回の肺がん検診を受けましょう！

禁煙は「あなた」と「あなたの家族」を守ります

たばこの煙は、本人だけでなく、受動喫煙によってご家族の健康も脅かします。禁煙は、あなた自身の命を守ると同時に、大切なご家族をがんから遠ざける大切な取り組みです。

健康だけじゃない！ 禁煙のメリット

◆禁煙には、健康面だけでなくさまざまなメリットがあります。例えば、1箱580円のたばこを1日1箱毎日吸った場合、**1年間で21万1,700円、5年間では105万8,500円が節約できます。**

◆経済的負担の他にも、たばこを吸う時間の節約、肌や歯などの美容面、臭い防止などのメリットもあります。

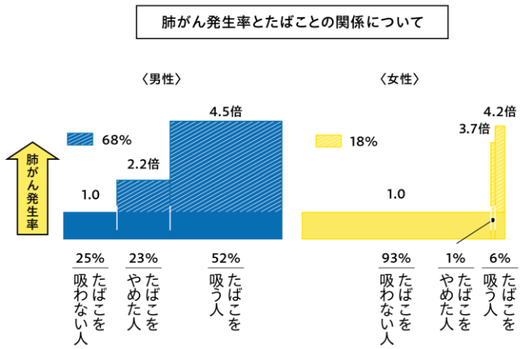


1箱580円のたばこを1日1箱／1本5分毎日吸った場合

喫煙者の肺がんリスクは 男性4.5倍、女性4.2倍！

◆ たばこを吸わない人と比較して、**吸う人が肺がんになるリスクは男性で4.5倍、女性で4.2倍**にもなることが分かっています。

◆これは、大気汚染などの環境要因よりずっと高い数値です。**たばこは、肺の細胞を直接的に傷つけ、がんのリスクを劇的に高めます。**リスクが高いからこそ、禁煙の効果も絶大です。



出典：国立がん研究センターがん対策研究所 https://epi.ncc.go.jp/jphc/outcome/254.html

他にもこんな病気のリスクが…

食道や胃などのがんをはじめ、心筋梗塞、脳卒中、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、糖尿病など、喫煙は全身の病気の原因になります。

受動喫煙 が原因で 日本では約1万5,000人※1が死亡しています

赤ちゃん・子どもに与える影響

◆ニコチンの作用でへその緒や胎児の血管が収縮し、**十分な酸素や栄養の供給が低下**します。

◆出生後もさまざまな病気にかかりやすくなるほか、大人になってからも生活習慣病のリスクが増大します。



妊娠中のリスク

- 早産
- 低出生児
- 自然流産

出生後のリスク

- 乳幼児突然死症候群（SIDS）
- ぜんそく、アレルギーのリスク
- かぜ、肺炎にかかりやすくなる
- たばこ誤飲の可能性

ベランダでなら大丈夫？

◆換気扇の下やベランダでの喫煙でも、受動喫煙は防げません。

◆直接たばこの煙を吸い込まなくても、喫煙者の服や髪に付着した有害物質を吸い込む三次被害（サードハンドスモーク）というリスクもあります。



子どもの体内に入るニコチン

両親が全く吸わない場合を 1 とすると…

- 扉を閉めた屋外 2倍
- 換気扇の下 3倍
- 同じ室内 15倍

出典：JohanssonA et.al：Pediatrics 113;e291- 295,2004.

※1 受動喫煙との関連が「確実」と判定された肺がん、虚血性心疾患、脳卒中、乳幼児突然死症候群（SIDS）の4疾患について、超過死亡数を推定した結果